九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[43]文學研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/2339122

出版情報：文學研究. 43, 1952-03-10. 九州文学会
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

彙報

九州文学会談話会

○言語表現について
—古典の現代語訳を中心として—
昭和二十六年十二月八日　於小会議室　福田良輔教授

○奥の細道について
昭和二十七年一月二十三日　於大会議室　杉浦正一郎助教授

九州大学文学部文学関係講義題目

昭和二十六年度第二学期
（自昭和二十六年十一月
至昭和二十七年三月）

國文學・國語學

特講　古代国語の方言学的研究　福田教授
演習　万葉集　〃
演習　とうかへばや物語　〃
日本近世文学史（元禄の文学）　杉浦助教授
演習　西鶴（世間胸算用）　〃
演習　芭蕉（猿蓑）　〃

中國文學

唐代文学史　目加田教授
演習　元曲　〃
演習　唐代小説　〃

英文學・英語學

中世英文学史　中山教授
十八世紀英詩人研究　前川助教授
英文学　ベンジャミン教師
Symbolism in English and American Literature
演習（一）Chaucer: “Canterbury Tales”　〃
演習（二）Modern Plays　〃
演習（三）現代散文文学　〃
演習（四）Golden Treasury of Modern Lyrics　前川助教授
演習（五）A. Huxley: Stories, Essays, and Poems　〃
演習（六）Shakespeare:“Twelfth Night”　〃
演習（七）W. Faulkner: “Sanctuary”　ベンジャミン教師
演習（八）English Composition　〃

佛文學

講義　モリエール研究　進藤教授
講読　ランソン「フランス文学史」　〃
演習（一）アルフレッド・ミュッセ「戯れに恋はすまじ」

演習（二）ラ・ロシュフコー「箴言集」　〃
講義　ルソー序論　永田助教授
演習　ポール・ヴァレリー「ヴァリエテ」抄　〃
演習　デイドロ「ルリジウーズ」　佐藤講師

獨文學

独語学概論　高橋助教授
講読　フアウスト　〃
演習　ラオコン　〃
演習　カロツサ　〃
講義　テオドール・シュトルム研究　石本講師

古代語

ギリシヤ語初歩　長沢教授
White First Greek Book
ラテン語初歩　ベネット文法　デロリエ講師
西藏語初歩　古典西藏語文法要論　伊原講師

外國語

英語　前川助教授
英語　English Conversation for Intermediate Students　ベンジヤミン教師
仏語　メーストル「シベリヤの少女」　永田助教授
独語　西田講師
露語　吉町助教授
中国語　影山講師
仏語初歩　モーパッサン「アン・フアミーユ」　永田助教授
独語初歩　ハイゼ「高嶺の乙女」　西田講師
露語初歩　吉町助教授
中国語初歩　影山講師

言語學

概論　吉町助教授
中国語演習　影山講師
西洋思想史　History of Western Civilization from Renaissance to Present Day　ベンジヤミン教師

九州大学文学部関係
昭和二十七年三月卒業論文題目

一、近代リアリズムの変質について　林敬之助
一、竹取物語の背景
　説話の推移過程を主題として　村田正志

一、嘉村礒多論　雨宮崇
一、蕪風地方滲透の一考察として
　日田蕪門の研究　大内初夫
一、宮本百合子論　木原民也
一、萩原朔太郎論　工藤正介
一、純粋小説論　田村克郎
一、徳田秋声論　野上一男
一、A Study of "In Memoriam" by Alfred L. Tennyson
　—テニスン作「イン・メモリアム」研究　安徳典光
一、A Study of "Sons anb Lovers" by D.H.Lawrence And His View of Love
　—ロレンスの「息子と恋人」及び恋愛観の研究　井芹龍成
一、On "Pride and Prejudice"
　—「高慢と偏見」について—　内野昭子
一、Katherine Mansfield
　—キャザリン・マンスフイールド　内田義郎
一、Wordsworth; His Meditation on Childhood
　—ワァヅワースの幼児に対する考察　岡崎眞砂男
一、An Essay on Walter Pater
　—ウオルタアペニタア試論—　筧寿雄
一、Charles Lamb's Philistinism through his "Essays of Elia"
　—「エリア随筆」を通してみたるラムの俗物性—　梶村績
一、Oscar Wilde; An Essay on the Intellect and Sensibility of Comedian
　—オスカア・ワイルド　喜劇作家の感性と知性についての評論—　栗田藤平
一、Conrad's Symbolism and His World
　—コンラッドの象徴主義と世界観—　斎藤鉄彌
一、On "Wuthering Heights"
　—小説「嵐が丘」について　椎木禰藏
一、Samuel Butler's (on Author of "Erewhon") View on Religion and Science
　—エルレヱホンの著者 Samuel Butler の宗教及び科学観　進隆
一、Walter Pater's View on Art
　—ウォルタア・ペイタアの芸術論—　立花和輝
一、On "the Scaarlet Letter" by Nathaniel Hawthorne
　—ホーソンの「緋文字」について—　鶴谷寿
一、Tennyson's "In Memoriam"
　—テニソンのインメモリアムについて　南島政章
一、Edgar Allan Poe; A Study of His Poetry
　—エドガア・アラン・ポウの詩について—　名古屋泰彦

一、An Essay on E.A. Poe, The Poet Chiefly on His Poetic Princple
—エドガア・アラン・ポオ研究—　波多江与平

一、On the Imaginative Dreamness of Coleridge
—コウルリッヂの想像的夢幻性に関して—　林　哲郎

一、Modernity in Chaucer
—チョーサア文学に於ける近代性—　比良俊典

一、Charles Lamb
—チャールズ・ラム—　堀田昭夫

一、Study of the Transition of Lafcadio Hearn's Views of Japan
—ラフカディオ・ハーンの日本観変遷の研究—　前田義通

一、A Study of "Erewhon"
—「エレホン」の研究—　山崎敬

一、On Conceptions of God in Robert Brownings Dramatic Monologues
—ブラウニングの劇的独白に於ける神の概念について—　山本昂

一、On Charlotte Brontë
—シャルロット・ブロンテについて—　吉田武士

一、フローベルについて　桑原晃

一、シャルル・ボードレール研究　恒本龍朗

一、アンドレ・ジイドに就いて　中村六介

一、カロッサ神秘思想と愛の合体　池田猛雄
副論文　世阿彌・芭蕉について

一、宋代の絵画
—特に夏珪について　岩松貞夫

受贈雑誌

一橋論叢（一橋論叢編輯所）
人文研究（大阪市立大学文学会）
哲学研究（京都・哲学会）
経済月報（大阪銀行調査部）
延喜式祝詞講（武蔵野書院）
神戸外大論叢（神戸市外国語大学研究所）
天の川（天の川会）
說林（立命館文学会）
商大論集（神戸商科大学）
国語国文（京都大学国文学会）
万葉（関西大学文学部国文学研究室内万葉学会）
天理大学々報（天理大学）
山形大学紀要（人文科学）
收書通報（国立国会図書館）
国内出版物目錄（国立国会図書館）

The Journal of Kobe City University of Foregin Studies（神戸市立大学）
国語（東京文理科大学国語国文学会）
文化（東北大学文学会）
国女歌舞伎絵詞（京都大学附属図書館）
基督教研究（同志社大学キリスト教研究会）
主流（同志社大学英文学会）
国文学研究（早稲田大学国文学会）
紀要（愛知女子短大学）
文芸と思想（福岡女子大学）
東北大学文学部研究年報第二（東北大学附属図書館）
独仏文学研究（九大独仏文学研究会）

九大国文学会

國文學會例會（二十六年十一月二十五日）　昭和二十六年度後半期　於第一演習室

この日先輩の方々多数御来会、研究発表も偉彩をはなち、質疑応答も活潑に行はれ盛会を極め終会、尚当日の研究発表題目及発表者は次の通り

一、上代歌謡における助詞「や」と「か」（卒論）　野田幸助
一、兼好の文芸の反封建性について　井手恒雄
一、合作浄瑠璃の作者文耕堂を中心として　横山正
一、俳諧研究の現状と将来　杉浦正一郎
一、古代日本語における言語基層の問題　福田良輔

國文學臨時講義

東京女子大教授笹淵友一先生は、二十七年一月十日より一月十六日迄現代文学を「近代文芸思潮」の題にて臨時講義をなされた。

笹淵先生の歓迎会並びに先生を囲んでの座談会（二十七年一月十四日）

この日午後一時より笹淵先生を囲んで、法文五番教室に於て座談会を開いた。福田・杉浦両先生を始め、学生及び先輩の方々が多数参加され「今迄の現代文学研究が国文学専攻以外の人が多く、抽象的であつたのに対し、もつと実証的にしかもそれに国文学出身の人がたづさはるべきだ」といふ事を中心に色々の意見が活潑に交はされた。引続き工学部階下食堂別室において先生の歓迎会を催した。

卒業論文發表會（二十七年二月三日）　於　三長閣

研究題目及び発表者

一、近代リアリズムの変質について　林敬之助
一、純粋小説論　田村克郎
一、宮本百合子論　木原民也
一、徳田秋声論　野上一男
一、萩原朔太郎論　工藤正介

一、嘉村磯多論　雨宮崇
一、蕉風地方滲透の一考察として
—日田蕉門の研究—　大内初夫
一、竹取物語の背景
—説話の推移課程を主題として—　村田正志

予餞會（二月三日）　於　三畏閣

中国文学会

中國文藝座談會

昭和二十六年五月十二日
白毛女について　上尾龍介
趙樹理の文学について　諸井耕二
巴金について　樋口進
昭和二十六年七月七日
茅盾論　小西昇
昭和二十六年九月二十九日
崑曲について　中田喜勝
丁玲論　吉田幸夫
昭和二十七年二月二十三日
竹内好氏を囲む座談会

西日本中國語文學會

昭和二十六年六月十六日
品詞論への反省——王力氏を中心として——　三浦康広
中国文学と源氏物語　古沢未知男
外来語の音訳について　能美徹
燕語、滬語の声音について　影山巍

九州中國會

昭和二十七年一月二十八日
王維　目賀田誠
春柳社の黒奴籲天錄上演について　浜一衛

臨時講義

昭和二十七年一月二十三日—二月一日
現代中国文学史　小野忍

英文学会

豊田先生を圍む會（昭和二十六年九月三十日・於飛梅荘）
久しぶりに来福された豊田先生を囲んで中山教授始め九大英文学会々員三十名が出席賑やかな懇談会を開いた。

日本英文學會第四回九州大會

昭和二十六年十月二十七日（土）二十八日（日）
於　熊本大学法文学部
九州大学教授　中山竹二郎

第一日　開会の辞
研究発表（第一会場）

1・J. Conrad: "The Nigger of the Narcissus". に就て
福岡学芸大学小倉分校　本田司
2・Ernest Hemingway as an artist.　米川信
3・Browning の dramatic monologue と心理描写。
甲陽学院高校　三谷正

4. 「シラー伝」その他。　九大第一分校　田中　大作
5. Wordsworth と国木田独歩。　泰西高校　小滝　安正

（第二会場）

1. 色を表わす言葉について。宮崎縣大淀高校　島田　平一
2. On M.Twain's English in his "Huckleberry Finn" from the grammatical point of view.　福岡縣鞍手高校　野上長次郎
3. 構文に於ける Nexus vs. Junction の一断面　九大第一分校　毛利　可信
4. 語尾E字の研究。　熊本女子大学　淨住　勤護
5. Caxton の英語発音。　九大第二分校　長沢由次郎

第二日（第一会場）

6. Thomas Hardy の "Epic Form" 期　熊本大学　金子　正信
7. V.Woolf の "Between the Acts" に就いて。　西南学院大学　石井　康一
8. Hawthorne の児童観。　九大第二分校　多久和新爾
9. Poe vs. Griswold.　九大第一分校　一力　秀雄
10. ビルマとイギリス作家　九大第一分校　後藤　武士

（第三会場）

6. Attributive Adjective の一用法に就いて。　大分大学　萱島　博
7. Phonemic Analysis of American English.　大阪外国語大学　林　栄一
8. オシアン散文詩の文体。　熊本女子大学　辰宮　栄
9. Walter Scott "Kenilworth" に現われたる obsolete words に就いて　佐世保商科短期大学　小山　茂平
10. Poe の "The Fall of Usher" の叙景　佐賀大学　石坂　一雄

特別講演

1. Sources of difficulties in modern English and American Poetry　Kyushu Univ. Dr. Benjamin
2. Some observations on the work of the American Professor of English now in Japan　Kumamoto Univ. Dr. Dombras

閉会の辞　熊本大学教授　河原畑正行

○英語學臨時講義（昭和廿六年十一月十二日―十八日）

「英語発達史」　東大教授　中島　文雄

佛文科消息

九州フランス文學會發會式及び發會記念公開講演會（昭和二十六年十一月一日）

兼ねてから設立準備中の「九州フランス文学会」の発会式並びに第一回総会は、十一月一日午後一時より、法文第一演習室

において開催され、会長に九州大学文学部教授進藤誠一氏を推し、西南大学、福岡商大、久留米大学、北九州外語大学、長崎大学、熊本大学、大分大学及び九州大学の仏語担当教官に、それぞれ常任委員を委嘱することに決定した。ひきつづき、三時より第七演習室において、左の通り記念講演会が開催された。

一、比較文学について　九大助教授　佐藤　文樹
一、十八世紀フランスの天才論について　九大教授　小林栄三郎
一、ジェネーブの市民
——ルソーについて——　九大助教授　永田　英一

閉会後、五時より工学部地下食堂別室において、懇談会を開いた。

日本フランス文學會秋季總會（昭和二十六年十一月九・十両日）

昭和二十六年度日本フランス文学会秋季総会は、大阪大学主催のもとに左の日程により、全国各大学より参集、盛大に挙行された。

第一日　研究発表及び総会（於阪大医学部講堂）
第二日　研究発表及び公開講演会（於大阪府立図書館講堂）

本学より進藤教授はじめ、永田、佐藤（文）、石、城野諸先生が出席した。本学よりの研究発表左の通り。

一、ラシーヌとポール・ロワイヤル　九大助教授　石　進
一、スタール夫人とドイツの印象　九大助教授　城野　節子

尚、第二日公開講演の際、進藤教授の挨拶があつた。

フランス文化の會（昭和二十六年十一月十四・十五・十六、三日間）

関西日仏学館長マルセル・ロベール氏を迎え、九大学生部主催のもとに、十一月十四・十五・十六の三日間に亘り、九大においてフランス文化の会が催された。

一、十一月十四日　フランス文化映画会　於工学部講堂
映画（マチス、ワットー、マイヨール、ロダン）
解説者　九大助教授　谷口　鉄雄
一、十一月十五日　文学講演会　於法学部十一番教室
演題　サルトルの〝ユイクロ〟について
講師　マルセル・ロベール氏
通訳　九大助教授　佐藤　文樹
一、十一月十六日　フランス古典音楽鑑賞及び講演会（於工学部講堂）
レコードコンサート（ルクレール、クープラン、ラモー）
演題　フランス古典音楽について
講師　マルセル・ロベール氏
通訳　九大助教授　城野　節子

佛文科秋季ピクニック（十一月二十五日）

進藤教授はじめ、教官学生多数参加のもとに、観世音寺を見学、次いで太宰府へ遠足し、愉快な一日を過した。

独文学会

日本独文学会九州支部総会並に研究発表会は、昭和二十六年十一月二十三日、鹿児島大学文理学部に於て開催された。昭和二十四年にゲーテ祭を発端として発足した九州支部は、第三回総会を迎えて内容いよいよ充実し、九州・山口の会員殆んどが参集して、鹿児島地区の熱意と相俟つて盛大な学会の一日が過された。なほ総会席上、前任者国松孝二教授のあと、高橋義孝助教授が支部長に就任された。本会の次第次のとほり

総　会　午前九時より午前十一時まで
研究発表会　午前十一時より午後四時まで

研究発表題目及氏名

一、ゲーテに於ける人間の形成　斎藤平四郎（長崎大学）
一、トーマス・マンの「魔の山」について　窒井　義観（九州大学）
一、テオドル・ケルネルについて　田代四郎（熊本女子大）
一、シュティフターについての一考察　西田　越郎（九州大学）
一、ユーベルコムペンザツィオーン　支倉　幸雄（長崎大学）
——独逸的精神活動の一面観——
一、シュテファン・ツヴイクの恋愛体験　土方　学洋（熊本大学）
一、基督復活の信仰と復活祭劇　福山　四郎（熊本大学）
一、アイヘンドルフに就いて　古川　充二（佐賀大学）
一、ゲーテにおける自由の問題　三木正之（鹿児島大学）
一、ヘッベルの「ユーディット」について　溝辺龍雄（大阪市立大学）
一、フランクフルト時代のヘルデルリーンについて　守永　敏夫（山口大学）
一、テオドル・フォンターネについて　横山嘉良（久留米大学）